

関東アコーディオン演奏交流会

No.5

実行委員会ニュース

2015.10.28 発行

編集 広報部

ホームページ <http://www.kanto-acco.jp>

＝ 学びあうためのコンクール ＝

第27回関東アコーディオン演奏交流会を終えて

今年度は「独奏部門」でした。出場者の皆様は普段の練習の成果が十分発揮できたでしょうか。

遠くは、広島県、宮城県から参加して頂き 60 名の申込み、59 名（1 名、体調不良で当日辞退）の出場者で開催されました。内訳は「ジュニアの部」に 3 名、「初心者部 A」に 4 名、「初心者部 B」に 7 名、「シニアの部」に 17 名、「一般中級の部」に（20 名、内 1 名辞退）、「一般上級の部」に 9 名でした。

《感想》

今年度も約 3 分の 1 は初参加の方でした。新しいステージに身を置く方が大勢出場されることは大変喜ばしいことだと思います。前回出場者のいなかった「ジュニアの部」に 3 名出場されました。また、人数は少ないながらも採点、順位付けを希望されない方の出場も定着してきように思います。そして何よりも毎回レベルが高くなっているとの感想を頂きますが、今回も皆さん素晴らしい演奏を披露されました。

審査体制については、バンドネオン奏者の早川純氏を特別審査員に、桑山哲也氏は 5 年ぶりの審査でした。また、松原智美氏は活動拠点の大阪から参加してくださいました。審査事務局の努力で世代交代が図られるとともに、今回は例年使用していた「講評カード」（審査時に譜面への書き込みとは別に感想やアドバイスを書き込む用紙）を廃止しました。少ない書き込み時間の中で譜面と両方に書き込むことの負担を減らすことで、より落ち着いて譜面に集中できること、演奏者の姿勢や指の動きなどを見る余裕も生まれる。そのような理由から廃止してみましたが出場者の皆さん、審査員の皆さん、どうだったでしょうか。

ゲストの“タップ”はいかがでしたか、聴きにきて下さった方も今年度は多かったように思います。

最後になりますが、朝早くからの準備、司会、進行、障がい者介助、そして後かたづけと長時間にわたり支えて頂いた方々のお陰で無事に進行することが出来ました。また、審査員の先生方長時間ありがとうございました。

第 27 回・関東アコーディオン演奏交流会実行委員会

実行委員長 塚本五郎

※審査事務局より「審査のまとめ」が出されました。同封しましたのでご覧ください。

目次

- | | | | |
|--------------------------|----------------------------|-----------------------|-----------|
| ■第27回関東アコ演奏交流会の様子…2P～14P | ■フランスで出会ったアコーディオン弾き15P～17P | ■関英昭アコーディオン・リサイタル…18P | ■花岡教室…19P |
| ■花とアコーディオンコンサート…20P | ■ホワイトボード…21P～24P | | |

*****《入賞・入選者の演奏風景》*****

★ジュニアの部

(出場者3名)

※順位づけ希望なし2名

☆入賞第1位



齋藤万留さん

★初心者の部A

(出場者4名)

※他、該当者なし

☆入賞第1位



富岡裕宏さん

★初心者の部B

(出場者7名)

☆入賞第1位



吉岡里紗さん

初心者の部B 続き

☆入賞第2位



山下ひとみさん

☆入賞第3位



清水有紀子さん

☆入選



織田裕美さん

☆奨励賞



佐藤利枝子さん

《ジュニアの部・初心者の部A・初心者の部B》を担当された審査員(敬称略)



(左から)
松永勇次
柴崎和圭
青山義久
早川純(特別
審査員)

◇会場(小ホール)の様子◇



写真左
司会 功力さん



写真右
計時係 角田さん/長澤さん



《会場全体の様子》



★シニアの部（出場者 17 名）※順位づけ希望なし 1 名 ※入賞第 1 位なし（演奏時間超過）

☆入賞第 2 位

☆入賞第 3 位

☆入選（3 名）

☆入選



満武直人さん



園山三左子さん



羽鳥和夫さん



本荘雪子さん

☆入選

☆奨励賞



4. 本田尚久さん



16. 氏家道子さん



◇シニアの部司会（松井さん）

◇計時係（鎌田さん／神山さん）

《シニアの部を担当された審査員（敬称略）》



（左から）
川口裕志
桑山哲也
山岡秀明
松原智美

★一般中級の部（出場者 20 名）※辞退者 1 名

☆入賞第 1 位

☆入賞第 2 位

☆入賞第 3 位

☆入選（4 名）



橘川宗明さん

☆入選



池谷まゆみさん

☆入選



和里田えり子さん

☆入選



須藤範子さん



佐藤八重さん



渡部由美子さん



星野一美さん



★一般上級の部（出場者 9 名）※入選なし

☆入賞第 1 位

☆入賞第 2 位

☆入賞第 3 位



佐藤 和さん



皆川松江さん



小林のり子さん

《一般中級の部・一般上級の部》を担当された審査員（敬称略）



左から：川口裕志 桑山哲也 山岡秀明 松永勇次 早川純（特別審査員） 松原智美
柴崎和圭 青山義久



司会 千葉さん
《会場の様子》



計時係 鎌田さん／東谷さん



***** 《結果発表並びに講評・表彰式の様子》 あいうえお順（敬称略）*****



青山義久



川口裕志



桑山哲也



柴崎和圭



早川 純（特別審査員）



松永勇次



松原智美



山岡秀明

◇ジュニアの部・初心者の部(A)・(B)の表彰の様子◇

柴崎利圭（ジュニアの部・初心者の部審査委員長）より賞状を授与され、よろこびの出演者



齋藤万留さん



富岡裕宏さん



吉岡里紗さん



山下ひとみさん



清水有紀子さん



織田裕美さん



佐藤利枝子さん



◇シニアの部の表彰の様子◇

川口裕志(シニアの部審査委員長)より賞状を授与され、よろこびの出演者



満武直人さん



園山三左子さん



羽鳥和夫さん



本荘雪子さん

※表彰時刻まで残ることのできなかった方は代理の方が受け取りました。

◇一般中級の部・一般上級の部の表彰の様子◇

山岡秀明（総合審査委員長）より賞状を授与され、よろこびの出演者



橘川宗明さん



池谷 まゆみさん



和里田えり子さん



須藤範子さん



佐藤八重さん



渡部由美子さん



星野一美さん



佐藤和さん



皆川松江さん



小林のり子さん



終わりのあいさつ（塚本実行委員長）



出場者の譜面に書き込まれたアドバイスの一例



《ゲスト演奏の様子》

Tap 清水夏生 x Pf 松下福寿 x Gt 佐田慎介 trio



Pf 松下福寿



Tap 清水夏生



Gt 佐田慎介



※ふだんあまり観ることの無いタップをご覧いただきました。いかがでしたでしょうか。
早いもので2ヶ月たちますが、感想などございましたら実行委員会へお寄せください。

*****《打上げの様子》滝野川会館地下1階 レストラン「けやき」*****



青山先生はめずらしく帰られましたが、その他の審査員はみなさん打上げに参加してくださいました。一言ずつ挨拶をいただきました。





参加者から感想など話していただきました。（次ページからの感想参照）



▲演奏で参加も（チロルのアコーディオンを演奏）



◇以下感想の中から◇

アコーディオンとバンドネオンは結構似ているようで違う部分もあるし、お互いに交流を深めて情報を出したり楽しめる部分もあるのかなと思いますので、僕もこれからアコーディオンを是非聴いて行きたいと思いますし、バンドネオンの世界も是非聴いていただきたいと思います。（早川純／特別審査員）

小 中学生から始める人もいるし、60過ぎてから始める人もいます。いろいろな人がいないと関東のコンクールはつぶれますから頑張ってください。(川口裕志／審査員)

こ うやってみんなで出来て良かったと思います。関東講師懇談会が発展して審査事務局を今二人でやっていますけども、僕はオブザーバーということでやっているけれど、できたら色々な人にも参加してもらってお互いが助け合っていきたいと思います。(松永勇次／審査員)

上 級の部ででした。サークルの先輩が2人も出て非常に嬉しく思っています。なぜ人は上がるんだろうかというのをちょっと研究したことがあって、まあ、結論から言うと、欲なんですね、上手く思わせたいとかそういう欲が一番上がる原因らしいです。いろんな発表会ってあるでしょうけど、聴く人は発表会だからそんなに上手く弾かなくてもあてにしていけないんだというんで

すよ。だからそう思ったら少しは気が楽かなと、私今日まちがったけれども、やはりそういう欲があったかなあという気がするんです。ここがちょっと不安と思うと、そこはやっぱり出ちゃうんですよね。なので、やはり完全に覚えていないんだなと、結果的にそういうふうに思いました。上がる人は、そういう欲っていうのがあるんだそうです。(I・M)

始 めてコンクールというものに参加しました。何百回も練習しました。こりゃあ上手くいくと期待をもって来たんですけども、途中で止まってしまいまして、その後わからなくなってしまい、ボロボロになってしまいました。たくさん経験すればそ

のうちそういうものにも慣れていきます。というお話も聞きましたので、これからできるだけ参加しようかなと思っているところです。人前で弾く経験をいっぱいしたいと思っています。(K・T)

2 年前に一般中級の部に初めて参加させていただきました。受付から練習する時間、発表する瞬間までいろんな面で本当に親切にいただいたのをよく覚えています。

今回は、そのときのお礼も兼ねて、出場せずにお手伝いしますから何なりと申しつけ下さいとお話したところ、間髪を入れずに“司会をやって下さい”と言われたんです。何回かお断りの電話をしたんですけども、是非にということでやらせていただきました。

私自身、出場者として、司会の方に自分の名前を紹介されて舞台に出て、会場がシーンとしている中で、自分に注目されているときにボタンをはずしたり譜面台を動かしていると、もう緊張しちゃって、最初の音が何だ

ったのかわからなくなっちゃう。いつ弾き始めたらいいんだろうといういろんな不安な経験も何度かありましたので、今回はそういうところで出場者の気持ちに立てたらいいなあという思いがすごくありましたので、「まず、私と一緒に付いてきてください。真ん中に行ったら軽く礼をしてすぐ座っていいですよ。そうしたら私が曲の紹介をしていますから、その間にボタンをはずしたり、譜面台の向きを調節したりしてください」そんなふうに進めてみました。

終わったあとに、出場された方から、「落ち着いて演奏できました」と声を掛けていただき、嬉しかったです。ほっとしました。(K・C) (今後とも司会をお願いします。の声)

中級で愛の讃歌を弾きました。小さい時からピアノを習いたいとお願いしたけどかなわず、こんなに大人になってからアコーディオンに挑戦しています。音符が読めないところから始めて7年半ぐらいになりました。前回デュオで参加して、ソロは初めてでした。デュオと違って少し心細い部分

があったんですけども、音楽をやったことのなかった自分が楽器を抱えて皆さんと同じ舞台に出て、一人で演奏できたこと自体がとっても嬉しくて、勇気をもって音楽の道に踏み出して良かったなあと思います。
(K・H)

7年ぐらい前に初級で初めて出たときに入賞第3位をいただきました。そのときアコーディオンを始めて5か月だったので、“なあんだ、アコーディオンってこんなもんか”みたいな、何か天狗になっちゃって、そこから、自分の音が違う、こういう音が出せないか、いや違う、これじゃないってどんどん落ち込んで、やっとなにか、“あっ、ジャバラだっ”ということがこの7年目で分

かって来たのかなと感じています。

初級で弾いたときはものすごく楽しく弾いていて、蛇腹も関係なく弾きたいように弾いていて本当に楽しかったのに、段々となんか違うと落ち込んでいた中で、蛇腹っていうものがやっとなつかめてきて、ほんとに初級の時の気持ちがよみがえった感じで、そこで入選したので今日はすごく嬉しいです。
(Y・S)

シニアの部で「チロルのアコーディオン」を弾きました。(聴きたい、の声)じゃあもう一度弾かせていただきます。本番では最初の出だしを間違っちゃったんですよ。で、間違わないように今はメモを用意しました。とチロルのアコーディオンを再演。(N・M)

僕は金子万久の弟子ですけど、本番でどうして上がるかというと、『お前たちには余裕がないからだ』と、それで、なんで余裕がないかというと『練習が足りないからだ』といわれたのを覚えております。先日、先生の7回忌が終わりましたけれど、金子先生のいうことを今でも思い出して頑張っています。(K・M)

シニアで「エスパニア・カーニ」を弾いたんですけど、審査員の先生は4人で一番端に松原智美さんがいたんです。最初ファンファーレのような“パンパパーン”とそこを一丁見せてやろうと思ったとき智

美さんと顔があって先生がニコッと笑ったんです。そこで電気が走っちゃって乱れてしまいました。毎年、今年こそは賞をもらおうと練習しているんですが今回もかないませんでした。(S・T)

2年前に出たときは“おミソ気分”でほんきにやったんですけど、今年はお出に当たってちょっと緊張しちゃった。

今週月曜日に、夜、犬の散歩をしながら“フー”と急に“楽しみ”っていう気持ちが表れてきて、月曜日から本番までのこの1週間毎日、なんとなく楽しみだなあという気持ちをちょこちょこ育てながらきょうを迎えました。

自分の頭の中では音楽が流れているのに左手が1小節ぐらい音がなかった。演奏中にそれを客観的に見ている自分がいて、変な気分で弾き終わってしまいましたけども、楽しく最後まで弾くことが出来て満足かなと思います。またチャレンジしてみたいなと思っています。(Y・O)

中級の部で「ソナチネ」を弾きました。よく、やさしいところは難しそうに聞こえるように、難しいところはやさしそうに聞こえるように弾ければ一人前といわれますけど、やさしいところは難しそうに聞こえるけれど、難しいところはやっぱり難しそうにしか弾けない。というのが現実です。

私も、最後の最後の着地を、あそこでミスタッチするとは夢にも思っていなかった。最後にポット抜けてしまった。何だったんでしょうね。その中で、自分の力の範囲で、しつ

僕は、当初出ようと思って申し込んだんです。いろいろ、とっかえひっかえ何やろうかなあと準備をしていたんですけど、体調不良も重なって申し込んだ後参加を辞退しました。なのでプログラムには名前が載っていませんが、そんなことがありました。

僕が最後の場として参加しようと思った理由は、私の楽器、実は17キロ近いフリーベースで重いんです。さすがにもうしんどく

今日は真野が別の所用で出かけていて、「今日は来れなくて残念だった」と伝えてくれとそういわれてきました。

出演者の皆さん、スタッフの皆さん、審査員の先生方それぞれお疲れさまでした。

実は、私事ですが、今日は何人か、アコー

初めましての方もいるかと思いますが、いま、音楽センターの山本さんの下で勉強しながらアコーディオンの修理、メンテナンスを学んでいます。何でも気軽に電話してください。(T・K)

僕がなぜ聴きに来るかっていうと、北区の住民だからです。赤羽会館だとか滝野川会館でやるのに来ないわけにはいかない。だって、地元の人が一人もいないって、

毎年受付にいますんですけど、例年出場者の方も替わってたり、新しい方も来てくれて本当に嬉しく思っています。実行委員もメンバーが足りない中でやっているんですけど、貴重な意見を頂いたので、今後に反映させていきたいと思っています。(I・T)

こく言われているような蛇腹の使い方で音が変わるんだというところが、それらしく伝わればいいのかなというところです。16分音符のところはどの先生も「ころんでいました」と書き込んでいる。そんなに慌てる必要はない。もっと1音1音しっかりと出すように、という指摘でしょうか。他にも、『テンポを崩さないで弾けるように』など、そういう基本的なことがまだ身についていない。どこまでできるかわからないけれどももうちょっと続けてみたいと思っています。(Y・O)

なってきた。そこで、これを最後に皆さんに聴いていただいて、『この楽器買いたい人いない？お譲りしますよ』とPRのために演奏したいというのが申し込んだ理由だったのですが、それが果たせずに残念に思います。2年後まで体調が持つかどうかわかりませんけれどいずれまた皆さんに聴いていただけると嬉しいなと思います。(K・T)

ディオンを弾き始めたきっかけがトンボ楽器のショールームで、私が接客した方々が3名ぐらいいいたかな。すごく嬉しかったです。橘川君も4年生ぐらいの頃から知っているんです。(竹田秀一さん／トンボ楽器製作所マーケティング部主任)

これほど淋しいことはない。北区の歌声で歌の伴奏をやっている方が出場しているけれど、北区からはだれも来ていない。今度紹介しておこうと思うんです。(R・S)

◎滝野川会館で行う場合、午前中いつも「ジュニア」「初心者」は小ホールを使って「シニア」は大ホールを使っているけれどどうしてなのか。毎回、会場を交互に使ってもいいのではないかな。

◎関東アコも第27回を開催させていただきました。まだ頑張らなくてはと思っていますけど、だんだん実行委員の数が減少傾向にあります。もう少し増やしたいと思いますので、この中で手伝ってもいいよという人がいたらお願いしたいと思います。今後ともよろしく願います。（塚本実行委員長）

◎ご夫婦とも視覚障がい者ですけど二人で来られて、出場なさった奥様はすっかり虜になっております。自宅に戻る早々に、来年はご主人とのコラボで出場したいと、すでに曲も決まり、先生にお願いしたと報告がありました。すごく前向きな方たちです。

それもこれも楽しかった証拠だと思いますね。介助いただいた方のお陰でとても気持ちが落ち着き安心して演奏が出来たと聞いております。皆様に感謝申し上げます。

[illegible]